



2025 年 5 月 12 日

各 位

上場会社名 日本トムソン株式会社  
代表者 代表取締役社長 細野幹人  
(コード番号 6480 東証プライム市場)  
問合せ責任者 執行役員 西村修  
(TEL. 03-3448-5868)

## IKO 中期経営計画 2026 の見直しに関するお知らせ

当社は、2024 年 5 月 16 日付で公表いたしました 2024 年度から 2026 年度までを計画期間とする I K O 中期経営計画 2026（以下、中計）について、下記の通り見直しすることといたしましたのでお知らせいたします。

### 記

#### 1. 主な変更内容

##### 中計の連結業績目標

|       | 当初目標           | 修正目標               |
|-------|----------------|--------------------|
| 営業利益  | 3 か年平均 90 億円以上 | 2026 年度までに 65 億円以上 |
| R O E | 3 か年平均 8 %以上   | 2026 年度までに 8 %以上   |

##### 中計の資本政策

|      | 当初目標        | 修正目標                                               |
|------|-------------|----------------------------------------------------|
| 株主還元 | 総還元性向 50%以上 | D O E (自己資本配当率)2.5%<br>を配当下限の目安<br>総還元性向 50%以上(継続) |

#### 2. 変更理由

当社グループを取り巻く事業環境は、生成 AI 向け半導体需要の高まりや人手不足による自動化・省人化が進展する中で、エレクトロニクス関連機器をはじめとする設備投資需要が回復基調にあるものの、一方では半導体製造装置業界における需要回復の遅れや中国市場の低迷、資源価格の高騰、物価上昇、急激な為替変動や地政学的リスクの高まりなど、不確実性の高い状況が続いております。当社はこのような変化の激しい事業環境に対応すべく全役職員が一丸となり、各種課題に向き合いながら持続的な成長への基盤強化を進めております。

これまで掲げていた中計の計数目標は、環境変化を踏まえた柔軟かつ迅速な対応を重視し、中長期視点で着実に成長すべく、「3か年平均」にて設定しておりましたが、初年度である2025年3月期の業績が目標水準を下回る結果となったことを受けまして、最終年度までの計数目標として「営業利益65億円以上、ROE8%以上」に見直しいたします。

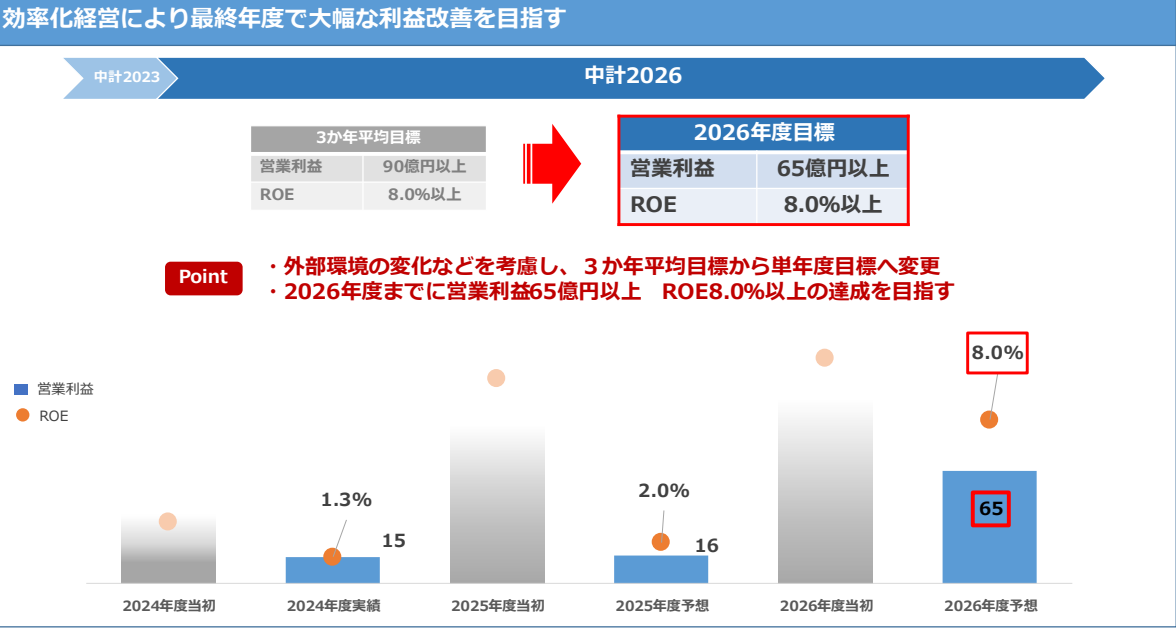
また、株主還元方針として、従来の総還元性向50%以上に加え、新たにDOE（自己資本配当率）2.5%を配当下限の目安として設定いたしました。これにより、財務基盤の健全性を確保しながら、安定的かつ高水準の配当と機動的な自己株式の取得を実施し、株主還元のさらなる強化を実現してまいります。加えて、資本効率の改善を重要な課題と捉え、早期にPBR1倍超の達成を目指し、中長期的な企業価値向上への取り組みを強化してまいります。

なお、中計の基本方針や成長戦略に変更はありませんが、外部環境の変化を機敏に捉えながら、市場動向を十分に分析し、高付加価値な製品・技術の提供による収益力の向上を目指し、計画達成および持続的な成長に向けて施策のさらなる深化と実行を加速してまいります。

内容の詳細は、2025年5月16日（金）に当社ウェブサイトに掲載いたします。  
（同日、機関投資家およびアナリスト向け決算説明会を開催予定）

（注）本資料に記載されている業績目標は、現時点で入手可能な情報に基づき作成しております。  
そのため、実際の業績等は様々な要因により計画と異なる可能性があります。

中期経営計画2026「計数目標」



## 中期経営計画2026「株主還元方針」

### 大幅な配当引き上げと機動的な自社株買いにより株主還元を強化

#### Point

- 新たにDOE(自己資本配当率) 2.5%\*を配当下限の目安として設定
- 自社株買いも含めた総還元性向 50%以上は継続

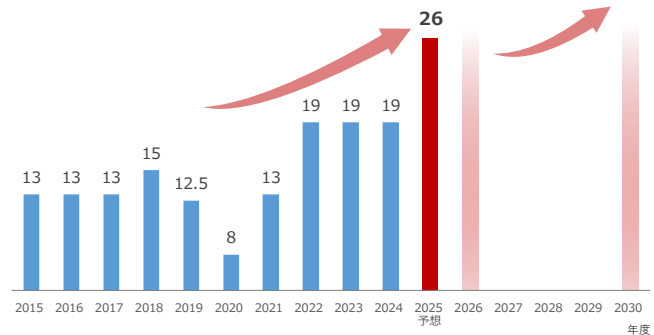
#### 【従来】

- 総還元性向50%以上
- 利益変動により減配の可能性

#### 【中計2026方針】

- 配当下限の目安として、新たにDOE 2.5%\*を設定  
⇒ 安定的かつ高水準の配当を実施  
※配当利回り 5.4% (5/9株価)
- 従来の総還元性向50%以上は継続、機動的な自社株買いも検討  
⇒ 積極的な株主還元を実現

1株当たり配当金(円)



\*DOEによる配当総額は、前期末と当期末を平均した自己資本で計算するため、実際の配当額は変動する可能性があります。

## 中期経営計画2026「成長への資金配分(キャピタルアロケーション)」

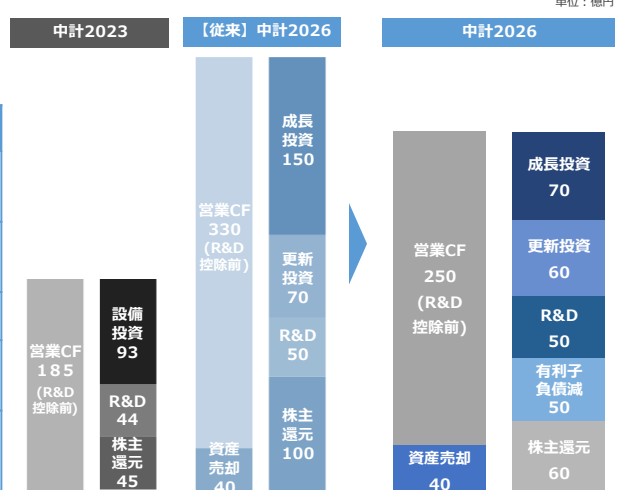
### 資本効率の改善と積極的な株主還元を実現する資本戦略

#### Point①

収益力を高め、持続的な成長と資本効率の向上を図るとともに、株主還元の強化等に取り組み、**早期にPBR1倍超を目指す。**

| 科 目   | 主な取り組み                                                                                                                |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 営業CF  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 収益力の確保・資本効率の改善を重視</li> <li>● 棚卸資産の適正化(回転月数6か月を目安)</li> </ul>                 |
| 資産売却  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 政策保有株式の売却(純資産の10%未満)<br/>⇒ 継続推進中</li> </ul>                                  |
| 成長投資  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● ベトナム新工場 ⇒ 投資時期を後ろ倒し</li> </ul>                                               |
| R & D | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 中長期の成長へ継続的に投資 ⇒ 継続(売上高比率 2~3%)</li> </ul>                                    |
| 株主還元  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 総還元性向 50%以上<br/>⇒ DOE 2.5%を設定(下限の目安)</li> <li>● 機動的な自社株買いを実施 ⇒ 継続</li> </ul> |

#### Point②



以 上